

都道府県別賞一等

生命保険は思いやり

徳島県 小松島市小松島中学校 一学年

金澤 香実

明るくて強く、とても元気だった祖母。大好きだった祖母がガンで亡くなって約三年がたった。夏休みになると、特に思い出すことが多くなる。お盆の時期には愛媛にいる祖母に会いに行くのが、小さい頃からの私の楽しみだったからだ。

祖母の病気がわかったとき、私も母もとても落ち込んでしまった。何をしても気になって仕方がなかった。病気になるなんて思えないほど、元気な人だったからだ。祖母は私が生まれる前に離婚をし、仕事をしながら一人暮らしをしていた。そのため病気がわかってから、母は祖母の治療費や、生活費の心配ばかりしていた。作文を書くことになり、思い切って初めて母にそのときの話を聞いてみた。

母も知らなかったようだが、祖母はしっかりとした生命保険に加入していたそう。それはたまたま親戚が就職した会社で良い保険があるとすすめられて加入していたそう。すっかり忘れていたが、お葬式のとくに私が会ったことのない若い男の人に、母が長い時間をかけてお礼を言っていたのを思い出した。その人が加入をすすめてくれた人だった。その保険のおかげで、何年もかけて治療を受けることができ、祖母が働けなくなつてからの家賃や光熱費など、母が心配していたお金のことはその保険でまかなうことができたそう。

「多分、生活費を節約して、毎月の保険料を一生懸命納めていたんだと思うよ。自分のためだけじゃなく、家族のためにね。」

と母は言った。私は今回母に話を聞くまで、生命保険は自分のために加入するものだと思っていた。でも母の、家族のためという表現にとっても納得ができた。私の母とその姉妹は、祖母とともに仲が良かった。お盆や正月に会いに行くのを、私と同じくらい母も楽しみにしていた。だから祖母はきっと、治療費や生活費のことで娘に心配をかけたくなかったはずだ。また、治療費が足りなくて良い治療が受けられなかったら、娘を悲しませしてしまうとも思ったのではないか。そう考えるのが、私と母が大好きな祖母の性格だ。母が言う通り、祖母は家族のために納め続けたのだと思う。

母は話して話してくれた。父も母も、生命保険に加入しているそう。保険のお世話になるときが来ないのが一番良いことだけど、誰だっつと元気でいられる保証はない。万が一そうなったときに、家族にかかる負担は、少ない

## 第61回中学生作文コンクール

方が良いからねと言った。大切な人を思う気持ち、生命保険に加入することに表れているんだなと感じた。

将来、私が一人で暮らすときや結婚するとき、子どもができたとき、自分のため、そして家族のために生命保険に加入しておきたいと思う。生命保険に入ると沢山のお金が必要なことは分かっているが、自分の大切な家族の負担を考えると、私はそのお金で安心を買いたいと思う。祖母や母の思いやりの気持ちを、私も受け継いでいきたい。